

Walk
in
Machi

まちを歩く

建物めぐりを
楽しむ
〈東京&近郊編〉

三井康壽・監修
公益財団法人建築技術教育普及センター編

文芸社

三井康壽・監修 公益財団法人建築技術教育普及センター・編
建物めぐりを楽しむ〈東京&近郊編〉

まちを

歩く

文芸社

Construction Guide
CONTENS

銀座

歴史的な価値を残しながら

時代の先端を追求し続けるまち

24

六本木

日本有数のタワービルの下に

江戸や明治からの坂道が息づく

30

本郷

130年を超す東大キャンパスと

文人が暮らした跡を訪ねる

36

浅草

江戸情緒とモダン文化が薫る

懐かしい風景が残るまち

42

両国

江戸から続く相撲興行の総本山は

「昔の東京」を知る歴史の宝庫

48

エリアマップ

6

監修の言葉

8

文学や文化の薫りが感じられるまち

御茶ノ水・神田

新旧の多彩な建築が点在する

文教・文化のまちを巡る

12

秋葉原

時代とともに変わる電気街と

オタク文化の発祥地を訪ねる

18

原宿・表参道・青山

歴史を語り、流行を生み出す
ケヤキ並木から青山通りへ

54

近代の足跡が見られるまち

築地・明石町

外国人居留地の面影と

市場の賑わいが隣り合うまち

60

上野

近代の名建築が生き続ける

憩いの公園「上野の山」を歩く

66

外苑・千駄ヶ谷

銀杏並木やキラー通りを歩き

由緒ある洋風庭園を巡る

72

西池袋

戦後の激動を物語る繁華街と
静かな文教地区という2つの顔

78

王子・西ヶ原

江戸時代からの桜に彩られて
都電が走るレトロなまち並み

84

国立

落ち着きのある文教地区と
自然豊かな田園地帯が魅力

90

関内

エキゾチックな建物が並ぶ
開港150年余りの港町

96

江戸情緒のあるまち

谷中・根津・千駄木

寺や神社に見守られてきた

〳古き良き江戸〳のまち並み

102

深川・木場

運河のまちに今も残る

下町風情と昭和の面影

108

千住

学都として歩み始めた

宿場町の面影を残すまち

114

八王子

甲州街道最大を誇った

宿場町の面影を訪ねる

120

川越

「小江戸」とたたえられる

風情豊かな蔵造りのまち

126

佐原

水郷の舟巡りで楽しむ

〳江戸まさり〳のまち並み

132

再開発や新たな計画によるまち

丸の内

歴史の深みを保つビジネス街に

新たに加わった「散策」の楽しみ

138

日比谷・有楽町

自然と文化と歴史に育まれた

大都会のオアシスを巡る

144

佃・月島・晴海

隅田川の河口に広がる

路地の下町と再開発都市

150

押上・向島

スカイツリーそびえる地に

まちの変貌の軌跡をたどる

156

幕張新都心

職・住・学・遊が一体化する

海上に生まれたニュータウン

162

川崎

「工場のまち」から変身した

アートと文化の新拠点

168

つくば

成熟した研究学園都市へ

現代建築と自然が融合するまち

174

川のある風景

隅田川

水の都の大動脈を下り

多彩な橋を眺める船の旅

180

江戸川沿い

サイクリングや渡し船で

寅さんの故郷を巡る

186

番外編

東京スカイツリー

スカイツリーを多彩に楽しもう！

おすすめビューポイントを紹介

192

インデックス

195

23区
エリア
MAP

王子・西ヶ原…P.84

千住…P.114

西池袋…P.78

谷中・根津・
千駄木…P.102

本郷…P.36

上野…P.66

浅草…P.42

隅田川
…P.180

御茶ノ水・
神田…P.12

押上・向島
…P.156

東京
スカイ
ツリー
…P.192

外苑・千駄ヶ谷
…P.72

丸の内…P.138

秋葉原
…P.18

両国…P.48

日比谷・有楽町
…P.144

佃・月島・
晴海…P.150

深川・木場
…P.108

六本木…P.30

原宿・表参道・
青山…P.54

銀座…P.24

築地・明石町
…P.60

0 1 km

エリアマップ

近郊東側
MAP



近郊西側
MAP



監修の言葉

最近はまだ歩きをする人が多くなってきた。ガイドブックを片手に見ながらまち歩きをしている人もいれば、ガイドさんの案内で団体で歩いている人たちもよく見かける。

まちには風がある、匂いがある、味わいがある。

賑わいがあるまち、静かで落ち着いた雰囲気のあるまち、まちにはいろいろな顔がある。

いつも見ている、勝手知ったまちでも気を付けて見ると今まで気が付かなかったまちの素顔に出会うこともある。

このようにまち歩きには楽しみが多い。まちは道や公園などの公共の施設と建物で造られている。その中で建物を見て歩くのはまち歩きの楽しみの一つであるが、建物はまちの大部分を占めているから、逆に日頃は余り建物について気をとられながら歩いているわけではない。

しかし、まちを歩いてふと見かけて立派な建物や昔からの建物などが目につき、まちの風情の良さを

感じる時がある。古いまち並み、家並みで有名な高山、倉敷、柳川、小布施などはそれ自体が観光地となっているのであるが、こうした観光地でなくても建物を見ながらまちを歩くことに楽しみを覚えるようになってくる。

そういった目で見てまちを歩いていると、まちには興味深い建物があちこちに建っていることに気が付く。超高層であったりを圧倒するような建物、デザインが人目を引くような建物、明治や大正時代のハイクラな建物、古くからの伝統的な神社仏閣等興味を持ち始めるとまち歩きが楽しくなってくる。

建物には建物を造った持ち主や建築家の自己主張がある。そうして造られた建物が周辺のまちの風情に合っているのか、逆にその建物によってまちの風情が変わってきているのか、その建物を使っている人、通りがかりの見ている人によってその建物の見方はいろいろだ。誰でも自分の住んでいるまちには美しく、住みやすいという誇りを持ちたいと願っていると思われる。良いまちには良い建物があると言つて過言ではない。

良いまちは写真を撮りたくなる、絵を描きたくなる。ヨーロッパの都市を歩いているとそれを実感することが多くある。

石造りのまちということもあって何百年と持ちこたえてこられたように広く大きな建物には装飾まで施されているまちもあり、芸術品とも言えるまちもある。そういうまちではあちこちでシャッターを切りたくなるものだ。我が国では先ほど述べた観光地のまちや、神社仏閣などに限られているように思える。

我が国は美意識の高い国だと言われているが、残念ながらまち全体を美意識で見つめている人が多いとは言えない。良い建築による良いまちは、建築家ばかりでなく市民の参加が大切だと思う。

市民の声が建物について意見を言うことが建築家をはじめまちを造っている人に伝わっていくからである。

そうした意味で、このまち歩きは建物に着目して読まれる方に関心を持って頂き、まちの建物について声をだして頂くことを願っているのである。

勿論、建物ばかりのまち歩きでは楽しみも十分ではない。食べ物屋さん、おみやげ屋さん、催しもの川や小高い丘などの自然の風景、橋や建物などの人工の工作物などの組み合わせが楽しみを与えてくれる。そうしたまちにある諸々の楽しみを求めて本書ではまち歩きをしたいと考えている。

最後になりましたが、インタビュー、取材・資料提供等にご協力を頂いた方々に心より感謝とお礼を申し上げます。

三井康壽

まちを歩く

建物めぐりを楽しむ〈東京&近郊編〉

文学や文化の
薫りが
感じられるまち

Construction
Guide

御茶ノ水 ・神田

新旧の多彩な建築が点在する 文教・文化のまちを巡る

お茶の水橋から見た聖橋。右はJR御茶ノ水駅。(2012年7月撮影)

いくつもの大学が立ち並び、日本最大の学生街として知られている御茶ノ水駅周辺や、100軒以上の古書店が集まる神田界隈は、江戸時代から、学問や教育の地として、そして文化や信仰の発信地として、歴史を刻み続けてきた。江戸の人々が集った儒学の殿堂、超高層ビルの大学校舎、文明開化のシンボリックな存在だった聖堂や、斬新なデザインの文化施設……。古い建物に刻まれた長い歴史を振り返り、新しい建物がつくる現代的な空間を楽しむ、そんな知的好奇心をくすぐるまち巡りをしてみよう。

全長約4.3km

START
JR
御茶ノ水駅

山の上
ホテル

ニコライ堂

湯島聖堂

神田明神

E

D

C

B

A

江戸の人々に親しまれた
神社と学び舎を訪ねる

古くから人々に慕われてきた神
田明神は、神田・日本橋・秋葉原・
大手町・丸の内など108の町の
総氏神様として都心を見守る神社



⑤ 神田明神 昭和9年(1934)築。設計顧問／伊東忠太、設計監督／大江新太郎・佐藤功一。江戸城の丑門(うしとら)の鬼門にあたる場所として、元和2年(1616)に現在地に移転。国登録有形文化財。

だ。天平2年(730)に現在の千代田区大手町に創建され、江戸時代初期に江戸城の鬼門よけとして現在地に移された。明治時代には神田神社に改称されたが、今でも神田明神の名で親しまれている。極彩色の文様が施された朱色の随神門をくぐると、総朱漆塗の社殿がひと際艶やかに建っている。昭和初期に、近代神社建築・都市建築を代表する3名の建築家によって設計されたものだ。当時としては画期的な、社殿初の鉄筋コンクリート造だが、木造建築の姿に近くなるよう設計されている。江戸時代中期には、神田明神の南に湯島聖堂が建てられた。儒学の振興のため、徳川五代将軍綱吉が命じ、元禄3年(1690)に上野忍岡にあった林家私塾と孔子廟を湯島に移した。儒学とは、孔子の思想をもとにした学問で、いわば人生哲学や社会哲学のこと。孔子廟「大成殿」では、將軍に仕える臣下向けの教育だけでなく、一般

向けの公開講釈も開かれ、武士から庶民まで座りきれないほど聴講者が集まったそう。

その後、湯島聖堂は幕府の最高学府「昌平坂学問所」となり、明治時代に師範学校(現・筑波大学)や東京女子師範学校(現・お茶ノ水女子大学)が設置された。そのため、現代教育発祥の地といわれている。創建当初は朱・緑・青・朱漆などで彩られた建物だったが、火災による焼失を繰り返し、その度に再建された。江戸時代後期に現在のような黒塗りとなったが、その建物も関東大震災で焼失。木立の中に静かにたたずむ現在の聖堂は、昭和初期に再建されたものだ。



⑥ 湯島聖堂 元禄3年(1690)創建。昭和10年(1935)築。設計／伊東忠太。大成殿内には、中央に孔子像、左右に孟子・顔子・曾子・子思の四賢人を祀っている。国指定史跡。

文明開化を象徴する教会と
風情のある老舗飲食店

神田川を隔てて建つ2つの聖堂「湯島聖堂」と「ニコライ堂」を結ぶ橋を、「聖橋」という。関東大震災後に、大地震に耐えられる橋が必要と建設されたものだ。

ニコライ堂 明治24年(1891)築、昭和4年(1929)修復。基本設計/アレフィエヴィッチ・シチュールボフ、監督設計/ジョサイア・コンドル。国内最大級の規模のレンガ造り建築。国指定重要文化財。



ニコライ堂は、日本の正教会の本山で、正式名称を「日本ハリストス正教会教団東京復活大聖堂」という。江戸時代の末に日本に正教を伝え、この大聖堂を建てたロシア人宣教師ニコライ大主教の名前にちなんで「ニコライ堂」の愛

称で呼ばれている。国内最大級の規模のレンガ造り建築だ。

大聖堂の建設が始まったのは、明治時代のこと。7年の歳月を費やして完成すると、その壮大で優美な姿は東洋一と称えられた。しかし、大聖堂の鐘楼やドームは、関東大震災で崩壊。のちに修復し、現在の姿となっている。東京大空襲のとき、「米軍が教会に爆弾を落とすわけがない」といわれたそう、実際にこの一帯は、幸いにも空襲を免れている。

神田須田町界隈には、日本伝統の空間と味を楽しめる老舗飲食店が集まっている。あんこう料理の「いせ源」、鶏料理の「はたん」など、いずれも大正時代以降の建物で、路地をぐるりと歩くだけで当時の風情をしのぶことができる。

作家が愛したホテルと日本の学生街

大学が林立する一角に、クラシ

（御茶ノ水・神田column）

千代田区が選ぶ「景観まちづくり重要物件」とは？

千代田区には、歴史的に価値のある建築が数多く残されている。その中でも、国の文化財などに指定されていない38の建物や19の橋を、千代田区の「景観まちづくり重要物件」に指定し、保存工事費の一部を区が助成するなど積極的な支援を行っている。

御茶ノ水・神田界隈では、

「聖橋」や「山の上ホテル本館」、「神田まつや」などの老舗飲食店、かつては交番だった「神田猿樂町会詰所」など、いずれも一度は目にした建築ばかり。区民・企業・行政が手をたずさえて守ることで、現在の風格ある姿が残されているのだ。



神田まつや 明治17年(1884)創業の老舗。江戸そばを堪能できる店として、食通として知られた作家・池波正太郎も常連だった。



神田猿樂町町会詰所 昭和5年(1930)頃築のレトロな建物。ドラマの撮影などにも使われる。

㊦ 山の上ホテル 昭和12年(1937)築。設計/ウィリアム・メル・ヴィアーズ。作家などの文化人が愛用することで有名。本館は千代田区指定景観まちづくり重要物件。



カルな山の上ホテルがある。本館の建物は、慈善事業に大きな貢献をした北九州の石炭商・佐藤慶太郎が出資し、婦人の生活と文化の向上のための「佐藤新興生活館」として建てられたものだ。
戦後は、米軍のWAC(陸軍婦人部隊)の宿舎になり、アール・デコを基調とした優雅な姿と眺望の良さから「Hiltop(ヒルトップ)」の愛称で呼ばれた。その後、このホテルは「文化人のホテル」として知られ、品格を守り続けている。

作家の池波正太郎、三島由紀夫などが好んだ天ぷらをはじめ、フレンチや中華などの料理が現在でも多くの人に愛されている。
明治大学の駿河台キャンパス内に建つリバティタワーは、超高層大学建築の草分け的な存在だ。
この校舎がまだ建設中だったころ、敷地の前には「大学の中に誰でも散歩できる広場をつくります」と書かれた看板が掲げられていたそう。今訪れると、キャンパスには扉や柵がなく誰もが自由に入出入りでき、広場で憩い、通り抜けもできる、そんなまちと一体化した空間となっている。また、市民向けや社会人向けの公開講座



㊦ リバティタワー 平成10年(1998)築。設計/日建設計。明治大学創立120周年記念館として建てられた、地上23階、地下3階の校舎。

が多数開催されるほか、世界中の企業や研究機関の研究拠点にもなり、知的交流の場として多くの人々に使われている。

古書店街を通り、文教の地ならではの建物を訪ねる

明治時代、神保町に明治法律学校(現・明治大学)や日本法律学校(現・日本大学)が建てられると、学生向けの書店や古書店が次々と開店した。これが、神田の

古書店街の始まりだ。

昭和初期に開店した誠心堂書店は、千代田区の「景観まちづくり重要物件」に選ばれている。商店建築で、小さいながら建築当時の街の雰囲気をしるはせている。

古書店街の一角に、三角形の大きなパネルを何枚も使った多面体の建物がある。劇場と映画館が併設された、**神保町シアタービル**だ。
戦前の神保町は、映画館や寄席などが多数存在する芝居小屋のまちでもあった。当時の活気を取り

㊦ 誠心堂書店 昭和5年(1930)江戸の本の心の心。指開業し、代写係中田区本道本をてい田区景観まちづくり重要物件。





④神保町シアタービル 平成19年(2007)築。設計/日建設計。卵にひびが入ったようなデザインが斬新だ。

戻したいと考えた、出版社「小学館」と「吉本興業」が建てたもので、表現者の館らしく、内部から活力があふれて殻がはじけるイメージの斬新なデザインとなっている。高層ビルが増えた神田界限で、昭和初期の姿を残しているのが学士会館だ。

「学士会」とは、旧帝国大学（現在は国立7大学）の卒業生の親睦

と知識交流を目的にした会で、大正時代に会員のための会館が建てられた。しかしその建物は、竣工のわずか21日後に大火災で焼失。その後、再建計画が進められたが、計画の最中に関東大震災が起こったため、昭和初期としては珍しい耐震・耐火の鉄骨鉄筋コンクリート造でつくられている。

全体の構造設計を手掛けたのは、

日本の耐震工学を確立した佐野利器^{じかの}、彼の門下生だった高橋貞太郎がデザインを手掛け、その端正な姿と独特な気品は、会員が社会に対して示すべき態度を表しているといわれている。

休憩処

竹むら



昭和5年(1930)創業の甘味処で、自家製のココのある餡を使った「あんみつ」などが人気。店舗は入母屋造りの純日本家屋で、2階からは向かいの老舗あんこう屋「いせ源」を眺めることができる。ともに、東京都選定歴史的建造物・千代田区指定景観まちづくり重要物件。

🕒 11時～20時(ラストオーダー19時40分) 休 日曜・祝日

☎ 03-3251-2328

📍 千代田区神田須田町1-19



①学士会館 昭和3年(1928)築。設計/佐野利器、高橋貞太郎。現在は、会員でなくても、宿泊施設・レストラン・結婚式場などを利用できる。国登録有形文化財。

文学や文化の
薫りが
感じられるまち

Construction
Guide

秋葉原

時代とともに変わる電気街と オタク文化の発祥地を訪ねる

秋葉原中央通り

世界有数の電気街として、日本人だけでなく多くの外国人観光客も訪れる秋葉原。このまちは、時代とともに表情を変えてきた。終戦直後はラジオの販売で賑わい、その後は白物家電と呼ばれる洗濯機や冷蔵庫、そしてテレビなどが電気店の店頭を飾った。時代を経て、パソコンの激安店、ゲームやアニメなどマニア向けの店が増え、メイドカフェやオタク文化など、独特のカルチャーを発信し続けた。そして今、世界的なITの拠点を目指している。そんな、時代の先端を歩み続ける「文化都市」を巡ってみよう。

全長約2.7km

2k540
AKI-OKA
ARTISAN

E

秋葉原
UDX

D

秋葉原
ダイヤル

C

秋葉原
電波会館

B

START
JR
秋葉原駅

A

秋葉原
MAP

東京都千代田区



GOAL

JR 秋葉原駅

AKIBA TOLIM

マーチ
エキュート
神田万世橋

3331 Arts
Chiyoda

戦後に大きく発展した 世界有数の電気街

戦後間もない頃のことだ。秋葉原に、電器商の間屋や小売店が次々と開店した。とにかく安くても賑わっていたという。加えて、戦後に増えた露天の店では、



①秋葉原電波会館 戦後に建てられた2階建ての建物。電気店のほか、2階には飲食店もある。

真空管がよく売れた。買ったのは、近くの電機工業専門学校（現・東京電機大学）の学生たちで、彼らがラジオを組み立てて販売すると、当時のラジオ人気もあって爆発的に売れたそうだ。

昭和25年（1950）頃には、約50軒の露店の電器商がこの界限で商売をして

いたが、その後、GHQによる露店撤廃令によって、露店の電器商は秋葉原に軒をそろえることになった。これが、電気街の誕生だ。まちは、昭和の高度経済成長期に発展し続け、世界有数の「電気街」といわれるようになった。現在の秋葉原は再開発が進み、昭和の電気街の雰囲気



オタク文化の発信地として秋葉原は若い世代で賑わう。写真はチラジを配るメイドカフェの店員。

気は薄れてしまったが、かつての電気街がそのまま残されているところがあつた。中央通りと高架線路が交差する小さな一画だ。

秋葉原電波会館と書かれた古いビルの中に入ると、スイッチ、コンデンサ、モーターなどの電子部品を扱う小さな店が長屋式にずらりと並んでいる。こまごまとした

商品が壁一面を埋めつくし、まるで別世界だ。時代とともに変わっていく続けるまちのなかで、ここは数少ない変わらぬ空間となっている。時代が平成になると、秋葉原で

パソコン関連商品が徐々に売り上げを伸ばしていった。アニメやゲームなどのソフトを求める若者たちが集まるようになり、その客層を狙ってアニメやゲーム系の店の進出が相次いだ。そして、平成7年（1995）から放映されたテレビアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』が大ヒットし、アニメやフィギュア関連の需要が拡大した。また、オタク文化やそこに集まる人たちの行動スタイルやファッションの傾向を指す「アキバ系」という言葉が生まれ、インターネットの電子掲示板への書き込みをもとにした、アキバ系オタクを自認する独身男性のラブストーリー（「電車男」）がベストセラーとなった。

こうして、サブカルチャーが広く一般に定着するとともに、このまちから発信される独特の文化は「オタク文化」と呼ばれるようになった。電気街として有名だった秋葉原は、オタクのメッカへと変



●秋葉原ダイビル
平成17年(2005)築。
設計/ダイビル株式会社、
NTT都市開発、鹿島建設。
地上31階、地下2階の全
面ガラスの建物。

駅前と秋葉原クロスフィード
の建物をつな
ぐ歩行者用の
立体横断デッ
キ「アキバ・
ブリッジ」を
進むと、秋葉
原UDXが

IT拠点を目指す 超高層建築

駅周辺が変わったのも、平成17
貌を遂げたのだ。
その後、オタク文化は多様化し
ていき、メイドカフェやアニメの
登場人物の衣装を着た店員が接客
するコスプレ飲食店が新しく誕生
した。平成17年(2005)には、
「若者のエネルギーがあふれるま
ち」であることを理由に、秋葉原
にAKB48劇場がオープンし、日
曜日には歩行者天国が実施される
など(4~9月は13時~18時、10
~3月は13時~17時)、今もなお
このまちは変わり続けている。

年(2005)頃からだ。「秋葉
原クロスフィード」が秋葉原の
電気街というイメージを大きく変
えた。
この一画は、秋葉原をIT産業
の世界的拠点にするためにつくら
れ、次世代の新しいビジネスを創
造していく場として、また、人・
情報・産業の新たな交流拠点とし
て期待されている。中心的な2棟
の建物のひとつ、秋葉原ダイビル
は、先進性をテーマにデザインさ
れた超高層建築で、各フロアには
コンベンションホールや大学・民
間企業の研究機関などが入り、産
官学連携プロジェクトの中心地と
なっている。

秋葉原 column

昭和から平成へ 変わり続ける電気街

日本の家電製品が世界中で
人気になった昭和の後半から
日本を訪れる外国人が秋葉原
で買物をするようになった。
世界有数の電気街は観光地と
しても知られ、免税店では、
電圧やコンセントの形が日本
とは違う外国向けの製品が売
られている。

平成になると、パソコン関
連商品や、電子ゲーム・アニ
メなどのソフトウェア商品が
人気となり、いつからか、秋
葉原はマニアやオタクのまち
へ。そして今は「ITの聖地」
として、さまざまな人が集う
まちとなっている。



老舗の個人商店が並ぶ。



電気街には外国人の姿も目につく。



①秋葉原UDX 平成18年(2006)築。設計/NTT都市開発、鹿島建設、NTTファシリティーズ、日総建。地上22階の建物で、地下の3フロアは約800台収容の駐車場。

ある。この建物のコンセプトは、「Cultural Generator (文化的発電装置)」で、秋葉原独自の文化をGenerate (生成) する動力源としてつくられた。アニメ関連のイベントなどを開催する東京アニメセンターのほか、イベントスペース「アキバ・スクエア」、飲食店街「アキバ・イチ」、野外ベンチなど、さまざまな空間があるのが特徴だ。

2階の階段状デッキからは、AKB48劇場やメイドカフェが入る大型デイスカウントストアのビルをはじめ、秋葉原の電気街の賑わいを眺めることができる。

職人やアーティストが集うものづくりのまち

高架線路に沿って上野・御徒町方面へ歩くと、シンプルな白塗りの建物が見えてくる。高架下の開放的なスペースを使った、新たなスタイルの商業施設、2k540 AKI-OKA ARTISANだ。高架線路を支える円柱の両脇に、職人たちが作った少量生産の和雑貨、インテリア、革製品を扱う工房兼ショップがいくつも並び、高架下がものづくりのまちとなっている。施設の名前 AKI-OKA ARTISAN

高架線路に沿って上野・御徒町方面へ歩くと、シンプルな白塗りの建物が見えてくる。高



②2k540 AKI-OKA ARTISAN 1期は平成22年(2010)築、2期は平成23年(2011)築。設計/交建設計。こだわりの商品を製造販売するほか、ものづくりが体験できるワークショップも開催している。

は、秋葉原と御徒町の間位置する職人 (ARTISAN) のまちを意味し、2k540とは、鉄道の起点「東京駅」から2540m (鉄道用語で2k540) 付近であることを表している。

旧練成中学校を改修してつくられた3331 Arts Chiyodaは、千代田区民が気軽に文化芸術に親しむ場として誕生した、地域密着型のアートスペースだ。日本、アジ

ア、そして世界中をつなぐ「新しいアートの拠点」になっており、第一線で活躍する各国のアーティストたちが手掛けた最新のアートや、誰もが身近に感じられるアートなどを展示している。館内を歩き回ると、かつて教室だった空間でアーティストたちの制作活動を垣間見ることができるのも魅力だ。



③3331 Arts Chiyoda 平成22年(2010)に中学校を改修してオープンした。かつての校舎や体育館などでアートを展示している。

今はなき明治時代の駅と 平成に開業した新鉄道

中央通りを神田方面に進み、電
気街を抜けたところに万世橋があ
る。下を流れるのは神田川で、対
岸の川沿いには趣ある赤レンガの
建物が建っている。

実はこの地には、かつて中央線
の一大ターミナル駅があった。そ
の名も「万世橋駅」。東京中央停
車場（現・JR東京駅丸の内駅
舎）の設計を手掛けた、辰野金吾
と葛西万司が設計し、明治45年
（1912）に開業した。駅舎は、
美しく堂々とした赤レンガ建築で、
この界限は多くの人々に賑わった
という。

万世橋駅は、昭和に入ると鉄道
博物館（のちの交通博物館）併設
の駅となり、昭和18年（1943）
には駅としての営業を停止。現在
も残る赤レンガ建築は旧万世橋駅
の遺構で、高架線上にはプラット
ホームも残されている。この遺構



⑥ マーチエキユート神田万世橋 設計／(株)JR
東日本建築設計事務所、みかんぐみ。赤レンガ建
築の旧万世橋駅駅舎を生かして誕生した商業施設。
飲食・物販など11の常設店が並ぶ。

と一体化した商業施設マーチエ
キユート神田万世橋が平成25年
（2013）にオープンした。2
階にはガラス張りのカフェと展望
デッキを新設。中央線の車両が行
き交う様子を間近に見ることがで
きる空間となっている。

歴史の中でなくなつた駅があれ
ば、新しくできた駅もある。

秋葉原一つくば間を結ぶ鉄道、
つくばエクスプレスが開業したの
は、ちょうど秋葉原クロスフィー
ルドが完成した年だ。IT拠点

目指す秋葉原と、学術拠点のつく
ばが直結したことは、まちが変わ
るひとつのきっかけにもなった。

つくばエクスプレス秋葉原駅の上
には、飲食店やホテルが併設され
た駅ビルAKIBA TOLIM^{アキバトリス}がつく
られ、その外観は進化するまちの
イメージとつくばエクスプレスの
スピード感を表現した、シャープ
なデザインの建物となっている。

時代とともに変わり続けるまち、
秋葉原。独特の雰囲気と賑わいの
なかを歩きながら、このまちの魅
力を感じてみてはいかがだろうか。

休憩処

N3331



マーチエキユート神田万世橋の2階
にオープンしたカフェ・バー。昼はフー
ドコーディネーターによるセレクトラン
チ、夜は酒や旬の肴が楽しめる。ア
ーティストの展示スペースとしても機
能する。

営業 11時～23時（日曜・祝日～21
時） 休 無休

☎ 03-5295-2788

📍 千代田区神田須田町1-25-4



⑦ AKIBA TOLIM
平成20年
（2008）
築。設計／
大成建設。
ビルの外観
はタイルとガ
ラスを使った
モトーンで、
洗練された
雰囲気。

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

監修者プロフィール

三井 康壽 (みつい やすひさ)

昭和14年（1939）東京都生まれ。東京大学法学部卒。工学博士。

昭和38年（1963）建設省（現・国土交通省）に入省。都市、住宅、建築行政に携わり、全国各地の“まちあるき”をしてきている。

現在、政策研究大学院大学客員教授、公益社団法人日本不動産学会副会長、公益社団法人都市住宅学会会員、公益財団法人建築技術教育普及センター評議員。

“まちあるき”に関する刊行物の監修者として、「建物を楽しむまち散歩 まちを歩く」（平成19年3月、建築技術教育普及センター発行）、「てくてく建物散歩 まちを歩く」（雑誌チルチンびと連載、風土社発行）がある。

編者プロフィール

公益財団法人建築技術教育普及センター

建築士試験の円滑な運営と実施体制の整備を図るとともに、建築士をはじめとした建築技術者の資質の向上を目的とし、昭和57年（1982）9月、財団法人として設立。平成25年（2013）4月、公益財団法人へ移行。現在、建築士法に基づく中央及び都道府県指定試験機関並びに登録講習機関。

建築技術者やこれから資格を取得して活躍が期待される者に対する建築に関する様々な情報提供を意図し、機関誌QUAを発行（現在は休刊）。その中で平成11年（1999）から連載された建物を中心に身近なまちの魅力を再発見するシリーズ「まちを歩く」は多くの方々から関心を寄せられた。本書はその流れを汲むものである。

まちを歩く 建物めぐりを楽しむ〈東京&近郊編〉

2014年 6月13日 電子書籍版発行

監修者 三井 康壽

編者 公益財団法人建築技術教育普及センター

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060（編集）

03-5369-2299（販売）

<http://www.boon-gate.com>

©THE JAPAN ARCHITECTURAL EDUCATION AND INFORMATION CENTER 2014 Coded in Japan

ISBN978-4-286-13217-4

●本作品の全部または一部を複製、編集、修正、変更、頒布、貸与、公衆送信、翻案、配布する等の著作権及び著作者人格権侵害となる行為、および有償・無償に関わらず、本データを第三者に譲渡することは禁止いたします。